

NEWS 1

定時総会、日本銅センター賞表彰式を開催

(社)日本銅センターでは、去る5月31日、ホテルグランドパレス(東京千代田区)において、定時総会および理事会を開催し、下記の通り役員を選出した。

- 新任 会長 家守 伸正 ・日本鋳業協会 会長
住友金属鉱山株式会社 代表取締役社長
- 新任 副会長 後藤 良太 ・一般社団法人 日本伸銅協会 会長
日立電線株式会社 執行役 金属材料事業本部長
- 留任 副会長 吉田 政雄 ・社団法人 日本電線工業会 会長
古河電気工業株式会社 代表取締役社長

また、同日同会場において第38回日本銅センター賞の授賞式を開催した。受賞者は次の通り

- 京都府板金工業組合 理事長 田原 茂氏
〈銅加工・板金技術における銅の普及促進及びイメージアップに貢献〉
- 社会福祉法人めじろ会めじろ保育園 園長 ^{ひらきまわ} 柗沢 章次氏
〈「銅の殺菌力」を設備として取り入れた保育園〉
- 株式会社明石合銅 代表取締役社長 明石 寛治氏
〈モータ用銅製ロータのダイカスト量産技術確立〉



(社)日本銅センター
家守 伸正 新会長



日本銅センター賞受賞者

NEWS 2

画期的な銅ダイカストロータを出展
ーテクノフロンティア2011ー

去る7月20日～22日東京ビックサイト(東京・有明)で開催された「テクノフロンティア2011」に日本銅センターと(株)明石合銅が共同出展(協賛ICA)した。

銅ダイカスト製のモータ用ロータを展示。モータ効率を高める画期的な新技術に多くの来場者が熱い視線を送った。

ダイカスト技術による銅ロータ製造技術は日本銅センターの会員でもあるICA(国際銅協会)が開発。国内では明石合銅がその製造を手がけ、モータメーカーなどにサンプル出荷を開始している。

〈ICAセミナー開催〉

7月22日には、特設会場において、ICAのダニエル・リアン氏が「ダイカスト技術による銅ロータ製造技術」というテーマで銅ロータはアルミロータと比べてモータ効率が向上し、小型化、軽量化も可能など、銅ロータの特性を披露。聴講者は熱心に耳を傾けていた。



賑わう展示ブース



展示された各種銅ロータ



ICAによるセミナー

NEWS 3

(社)日本銅センターより
東日本大震災による被災者へ義援金

未曾有の被害をもたらした東日本大震災。この被災地支援のため、日本銅センターでは、平成23年6月に100万円の義援金を日本赤十字を通して被災地に送った。

なお、銅センターの正会員である国際銅協会(ICA)は、今回の震災被害に対して深い哀悼の意を表し、銅センターと同時に100万円の義援金を送っている。



TOPICS 1

市民に愛された 平塚市庁舎の銅製壁面装飾が引っ越し!?



平塚市庁舎のロビー壁面を飾っていた銅装飾が、庁舎の建て替えに伴い、引っ越しする予定だ。

昭和39年に完成したこの装飾は、小野 襄氏(当時日本

大学理学部)の手によるもので、半世紀近くにわたり、庁舎の象徴として市民に親しまれてきた。鍛金技術の粋を集めた530枚の銅板から成り、その一つひとつが繊細な芸術品として見事な造形美をつくりあげている。庁舎は平成24年より随時撤去工事に入り、壁面装飾は保存される予定となっている。



TOPICS 2

「鍛金 伊藤廣利の世界」常設へ 一藤野金属2Fショールーム



(社)日本銅センターの賛助会員でもある藤野金属(株)では、このほど本社(東京日本橋)2Fショールームに常設「鍛金 伊藤廣利の世界」をオープンした。先代社長藤

野宗次郎氏は長年東京芸術大学に「藤野基金」を設け、金属の作品にかかわる学生を支援してきた。その一環として東京芸大教授・故伊藤廣利氏の作品をコレクションしてきたが、その一部を一般公開したもの。



藤野金属株式会社(2Fショールーム)

〒130-0001
東京都中央区日本橋小伝馬町15-18
TEL03-3663-7711
FAX03-3661-3169
<http://www.fujino-kinzoku.co.jp>
info@fujino-kinzoku.co.jp
藤野宗次郎コレクション公開時間
月曜～金曜(祝祭日・規定休業日除く)
9:00～12:00 13:00～17:00
要予約: 電話またはE-mail、Webより。

編集後記

本誌の創刊号<51年前>の奥付にある編集後記に「新しい時代の新しい銅の一般誌としてここに誕生した。さあこれからだ。」とある。当時の編集委員の熱き息吹が伝わってくる。以来半世紀にわたり今月号で172号に至る。オールカラー刷り、現場取材を基軸に内容充実、長寿発行という国内でもまれなPR誌である。

これも業界の理解と編集委員はじめ関係スタッフ及び読者の皆様のご支援とご協力の賜ものと深く感謝申しあげたい。本号を最後に編集デスクを後任にバトンタッチ。「銅」誌の灯が今後も一段と輝きつづけることを期待し筆を置きたい。

編集デスク 斉藤 久嘉((社)日本銅センター)

情報発信委員会

<委員長>堀田修司((株)神戸製鋼所)
<委員>鉦山/塚本弘之(三菱マテリアル(株))、鏡原俊一(バンパシフィック・カップ(株))、永田禎彦(日本鋳業協会)伸銅/轟正博(古河電気工業(株))谷敬三((一般社)日本伸銅協会)電線/湯谷彰((株)フジクラ)、後藤信之((社)日本電線工業会)((社)日本銅センター)和田正彦、幸洋二